

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 11 回松阪市過疎地域の活性化を考える会
2. 開 催 日 時	令和 2 年 11 月 16 日(月) 午後 7 時～午後 10 時
3. 開 催 場 所	飯南地域振興局 2 階第 1 会議室
4. 出 席 者 氏 名	(委 員) ◎佐々木会長、○寺脇副会長、木下会員、久保会員、堀川会員、榊原会員、高木会員 (事務局) 飯南地域振興局 地域振興課 堀川課長、森本主幹、飯高地域振興局 地域振興課 尼子課長、土記 (三重県立飯南高等学校) 土方校長 (松阪香肌商工会) 藤岡事務局長 (地域おこし協力隊) 横山陽子、高杉 亮 (地域づくり連携課 移住促進係) 内田係長、清川主査 (西部教育事務所) 中林所長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市企画振興部 飯南地域振興局 地域振興課 森本 TFL 0598-32-2511 FAX 0598-32-3771 e-mail chishin.nan@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 令和 2 年度事業、松阪市の取り組みの進捗状況について
2. 意見交換
 - ①地場産業の活性化を図る施策
 - ②その他過疎地域の活性化を図る施策（人材育成）
3. その他

第 11 回松阪市過疎地域の活性化を考える会 議事録

日時：令和 2 年 11 月 16 日（月）午後 7 時～午後 10 時

場所：飯南地域振興局 2 階第 1 会議室

1. 会長あいさつ
2. 令和 2 年度事業、松阪市の取り組みの進捗状況について
3. 意見交換
4. その他

（出席者）

- ・ 会員 佐々木 幸太郎（会長：松阪香肌商工会）
寺脇 政彦（副会長：住民協議会推薦）
堀川 由美（住民協議会推薦）
久保 一也（住民協議会推薦）
木下 幸一（住民協議会推薦）
高木 達彦（飯高地域振興局）
榊原 典子（飯南地域振興局）
- ・ オブザーバ 藤岡 信（松阪香肌商工会事務局長）
土方 清裕（三重県立飯南高等学校 校長）
横山 陽子（地域おこし協力隊）
高杉 亮（地域おこし協力隊）
- ・ 行政関係 地域づくり連携課 移住促進係 内田係長、清川主査
西部教育事務所 中林所長
飯高地域振興局 地域振興課 尼子課長、土記
飯南地域振興局 地域振興課 堀川課長、森本主幹

（傍聴者数） 0 人

（内容）

1. 会長あいさつ

佐々木会長 この会も早、11 回目になる。今回と次回（年度末）で一つの区切りを迎えることになるため、今日は大事な会議になると思う。ウイズコロナの生活がなじんできて、マスクをすることが定着しているが、マスクをすると表情が見えにくかったりするので、今まで以上に『表現する』ということが大切になってくる。同じように松阪市の施策としても『相手に伝わりやすい』ということが必要なのだと思う。

今日は、飯南高等学校の土方校長と、松阪香肌商工会の藤岡事務局長にお越しいただき、のちほどそれぞれの取り組み、また、地域の様子をご紹介いただくので、今日はよろしくお願ひします。

(会員・オブザーバによるチェックインスピーチ)

2. 令和2年度事業、松阪市の取り組みの進捗状況について(事務局から説明)
(事務局より、資料により説明)

(重点プロジェクト)

- 1) 過疎地域魅力アップ整備事業・・・資料1
 - ・まつさか香肌イレブンプロジェクト・・・尼子課長
 - ・香肌峡PR看板の設置・・・堀川課長

- 2) 地域おこし協力隊活動事業・・・資料2-1、2-2・・・内田係長
 - ・令和2年度地域おこし協力隊募集・・・高杉亮さん(R2.10.1～)
 - ・地域おこし協力隊の活動報告・・・横山隊員

- 3) 田舎暮らし交流移住促進事業・・・資料2-1、2-2参照・・・内田係長
 - ・まつさか移住交流センター開設
 - ・登録・相談実績など

- 4) その他継続事業の実施・・・資料3参照
 - ・自然体験イベント・・・尼子課長
 - ・サイクリングイベント・・・堀川課長
 - ・飯南高校関係・・・後ほど飯南高等学校からの説明をいただくため省略

(説明に関する質問)

- | | |
|-------|---|
| 佐々木会長 | 説明に関して何か質問があればどうぞ。 |
| 寺脇副会長 | 前に説明のあった、『エミューを飼いたい』という移住希望の方はその後どうなったのか。 |
| 清川主査 | その後、移住希望者本人より移住を断念する旨の申し出があった。 |
| 会 員 | 移住者の『田・畑がほしい』という希望にマッチする物件があるのか。また、そのような希望にあう物件は把握しているのか。 |
| 内田係長 | 基本的に行政で提供できるのは『空家バンク』の情報というこ |

- とにしている。それ以外の情報については、地域の方や、地域おこし協力隊の情報によって得ている状況である。
- 会 員 空家バンクの登録件数について聞かせていただいたが、移住者のニーズに対応しきれていない感じがする。波瀬にもいいところがいっぱいあるので、もう少し行政で空家に関して多くの情報を把握して紹介できるといいと思う。
- 内田係長 そのような情報があればありがたいのでよろしくお願いします。
清川主査 波瀬むらづくり協議会の皆さんにも全面的にご協力はいただいております。登録に至った物件も出てきている。
- 会 員 中間とりまとめの資料に、食のことについての記載があった。飯南の和菓子店は、営業を終了することになり、多気町の事業所がその技術を承継されることになったと聞いた。また、飯南にあった料理旅館の『しし鍋』についても旧松阪市内の事業者に承継されたという噂を聞いた。せっかくこの地で築き上げた技術を守っていくため、地元での承継について、もう少し何とかならなかったのかと思う。
- 佐々木会長 そのことについては、この後のテーマにも出てくるのでそちらで詳しくお話しできればと思っている。
次に、『地場産業』と『人材育成』について意見交換を行う前に、松阪香肌商工会と、飯南高等学校から概要をお伺いするということをご説明をいただく。
最初に松阪香肌商工会からお願いします。

①地場産業について

(藤岡松阪香肌商工会事務局より資料に基づき説明)

- ・ 飯南飯高管内の事業所数の資料については、平成 18 年度に飯南・飯高の商工会が合併してからの数値。増えることはなく、ここ 14 年間で 658 事業所から 440 事業者へと減少している。
- ・ 飯南町横野と、飯高町宮前より西で、事業所の廃業・流出が進んでいる傾向。
- ・ 卸小売業が 67 件廃業。消費が流出していることが明らか。
- ・ 他に減っている業種としては製造業と建設業。市内、他管内への転出が見られる。
- ・ 卸小売業は廃業がほとんど。
- ・ その他サービス業では、理美容業の廃業が目立つ。
- ・ 特産品販売ということで、先ほど話のあった飯南の和菓子店のことについては、水面下で動いたが、事業を受けていただけるところがなかったため、

残念ながら断念せざるを得なかったというのが現状。ここに目をつけられたのが多気町の事業所だったということ。

- ・ほかに、飯南のお菓子製造事業所は、飯高の事業所に技術が継承され、商品名は変わったものの、現在も販売が継続されている。
- ・第三者への事業承継というのは、やはり難しいと感じており、商工会としても課題だと思っている。

佐々木会長 商工会では、2年前から事業廃業と事業承継の意向についてのアンケートを取られたと思うが。

藤岡事務局長 まだ最終の結果は出ていないが、個人の事業者の場合、自宅と事業所が同じ敷地内ということもあって、廃業後もそこに住む場合は、資産を分割して事業承継することになるため難しいと感じている。

前任地でも、個人事業所で全く他人の第三者（個人）に事業承継されたのは、勤務期間12年間の中で1事業所のみだった。商工会がどのようにかかわっていくのかについてはたいへん苦慮しているところ。

佐々木会長 ご説明いただいた内容についての意見交換にいては、のちほど時間を取りたいと思っている。続いて、人材育成について、飯南高等学校の取り組みについてご説明いただきます。

②人材育成について

（土方飯南高等学校校長 資料、『これからの飯南高校の進むべき（現在進んでいる）方向について』などに基づき説明）

- ・考え方としては、『学校を残すため』だけではなく、どの地域に学校があったとしても、『今の社会に普遍的に必要な教育をいかにしていくか』ということで整理している。
- ・『変化の激しい社会の中で、変化に対応できる力を身につけなければならない』という前提で教育を行っている。
- ・国では、『社会に開かれた教育課程』ということを言っていて、より良い学校教育を通じてよりよい社会をつくるという目標を持ち、それを地域と共有して一体となって教育を行っていくことを目指している。
- ・この地域は、先進国共通の課題である少子高齢化・過疎化という世界最先端の学びの場あると考えている。

あと20年もすれば、東京・大阪という都市部でも人口減少が進むと考えられており、このような最先端の場で地域課題についての探究活動ができるということは、決まった正解がないこれからの社会に求められる力をつけることになるという考え方につながっている。

(5 分間休憩)

3. 意見交換

テーマ（1）地場産業の活性化を図る施策

・事業承継（商工会との連携）

（会員等からの意見は次のとおり）

- ・人口減でお客さんが減っているが、事業や技術を守ることは（事業継続・事業所の存続という形で）暮らしやすさにもつながると思う。
- ・事業承継がうまくいかないのは、事業規模の維持が難しいことがある。新たな活路として、特産品開発へシフトしていくことも行われている。
- ・この地域では、人が来ていただいても、泊まる場所、食べる場所が少ないという問題もある。根本的なことだが、交流人口を増やしていくことで地域経済を維持していくことが必要だと思う。
- ・商工会としても、経営発達支援計画策定による地域経済の活性化のため、いろいろな業界団体とともに、評議会の発足に向けた取り組みなど、行政と連携した取り組みに向かっているところ。
- ・木の産業が、木材から燃料（バイオマス）に変わっている。いい木（用材）は売れないが、そうではない木や端材が売れていくという現実もあって製材業は厳しい状況。運送業など付随する業種も影響している状況。
- ・コロナの影響は、まず、住宅・建築系へ、それ以降も連鎖しながら影響が及ぶ業種が変わるという状況が続いており、厳しい状況が加速している。（製材業、技術系、美容業など）経済はつながっているのだと感じる。
- ・開業支援を行っている自治体もあると聞く。
- ・以前の視察先の奈良県東吉野村では、移住者が起業している。これを地域がバックアップしていることで、移住者の増加につながっているようだ。
- ・移住者の創業率は高い。事業承継ももちろん必要だが、移住者支援の一環として、やる気のある移住者への移住創業の働きかけや支援もできるのではないか。
- ・事業もだが、食などの技術が地域内で承継されずに地域外へ流出してしまうことが課題。（→飯南の和菓子店）
- ・（飯南の和菓子店の例をもとに）今すぐの技術の承継は無理でも、仕事を廃業する前に、技術を地域の方（個人）に伝承するという考え方もあるのではないか。誰かがいつか技術を承継する場があるといいと思う。

- ・ 高校生や地元の普通の主婦が貴重な技術を学ぶことで、子や孫への家庭内承継も実現の可能性があるのではないか。このことが、事業・技術の復活・再生につながるのではないか。
- ・ 商売として成立させるだけが事業承継の道ではなく、『地域の味を守る』という視点に切り替えるのもいいのではないか。（これも結果として技術の承継につながる）
- ・ 今ある業種と何かを掛け合わせることで、生まれる仕事もあるのではないか。（例えば、林業×キャンプ＝焚き火の『薪』づくりのビジネスなど）
- ・ 小さなビジネスでも、成立することで事業所も雇用も増えるのではないか。
- ・ 目先だけではなく、損をしてでも次につながる投資で次世代の育成につなげることで、未来につながるのではないか。
- ・ 荒れた茶畑にできる茶の実を使った『茶の実油』に着目した人がいて、近隣の製薬会社と高校がコラボして、商品化しようとする例も聞く。（クラウドファンディングを活用）
- ・ 荒れた茶畑の茶の実（地域の課題）が希少価値のある茶の実油に変わるのは理想的。地域課題（耕作放棄地）を地域の魅力・産業にすることもできるのではないか。
- ・ この地域の人には、（地元の畑で採れた野菜など）普段からおいしいものを食べている。ずっと前から住んでいる人はわからなかもしれないが、他地域からくると、その魅力に気づくこともある。
- ・ 人が減ると事業規模が小さくなってしまう。拡大するのはなかなか難しいが、事業規模が小さくなったなら、1人が一つの仕事ではなく、複数の仕事にかかわる（仕事のシェア）という形もあるのではないか。（多業という考え方・・・以前の視察先の豊田市足助町の例も）
- ・ 地域でかかわれる小さな仕事の情報を共有できる環境が整うと面白く、可能性を感じる。
- ・ 楽しく仕事ができる姿を見てもらうと、移住者も増えるのではないか。

テーマ（２） その他過疎地域の活性化を図る施策（人材育成）

- ・ コミュニティの核となる小学校の存続
- ・ 外部で活躍する地域出身者の発掘、活用
- ・ 飯南高校との連携。県外生徒の受入れ、フィールドワーク、課題探究活動の支援等

(会員等からの意見は次のとおり)

- ・飯南高校は、退学者が非常に少ないと聞いている。これは学校に魅力があるということ。来てくれさえすれば十分魅力は感じてもらえる学校である。

このような飯南高校の存在をいかに知ってくれるか、いかに来てくれるかが課題なのではないか。

- ・飯南高校は、以前と比べ、過ごしやすい学校になったと思う。学問の学びだけではなく、社会（地域）に根差した教育を行われており、生徒が生き生きしている。

職業体験などの地域活動の取り組みは、学校ではないところで生徒の個性が出る時があって興味深い。

- ・そのような部分を発信できる『発信力』が必要で、これが、子どもの選択肢を増やすことにつながり、将来の生徒増につながるのではないか。

- ・地域やそれぞれの取り組みを軸に、高校生同士の交流を行うこともできるのではないか。(例えば、飯南高校の飯南ゼミと、CM コンテストを行っている近隣高校との交流など)

このような横のつながりから、(学校としての)新しい魅力が生まれるのではないか。

- ・学校同士のつながりは、まずは職員個人レベルのつながりをきっかけに始めていければと思っている。

- ・つながりのきっかけとして、行政の支援は何かあるのか？

→12/19・20・26に三重県が主催する『2020 高校生地域創造サミット』は、つながりのいいきっかけになると思う。

- ・のびのびと学びを深める環境を願う親も存在する。先日のカヌー体験での飯南高校の高校生ボランティアの活躍は、飯南高校が行ってこられた人間力を養う指導のたまものであると思う。

- ・教育現場でも高校時代の活動歴を大学進学の際に評価する方向もある。次の段階の目標として、飯南ゼミの生徒が、推薦で国公立大学へ進学することが願い。これが実現すれば保護者の学校を見る目も変わってくると思う。

- ・飯南高校の現在の取り組みを継続して行ってほしい。(島根県、愛媛県の高校における取り組みも例に)

- ・先日開催した『ワンディカフェ』や『空家の片付け』などでのボランティアなど、飯南高校生徒の活躍の場を広げて行ってほしい。

- ・(移住や技術承継などは)大学がないので、高校生にターゲットを。

- ・大台での高校廃校の時、進学先への不安で保護者がパニックになったと聞いた。絶対にこのようなことがあってはならないので、地域として飯

- 南高校はどうしても守っていかなければならない。
- ・ 地域において、飯南高校が存続できなくなる可能性があることへの危機感の共有と、飯南高校が取り組んでいる実績のPRが必要。
 - ・ 高校生に地域で頑張っている大人（本気の大人）を逢わせることが大切。大人（プロ）が仕事を超えて高校生に本気で向き合ったとき、生徒が劇的に変わる姿がみられた。（飯南高校から大正大学へ進学した生徒の例をもとに）このような生徒を一人でも増やしていきたい。
 - ・ 少子化の時代。学校を維持するためには、他地域から来ていただく必要がある。田舎がいいというニーズはあるので県外生徒の募集、下宿先の確保にご協力をいただきたい。

4. その他

- (1) 最終年度の過疎地域の活性化を考える会スケジュールについて（案）
- ・ 平成29年度11月発足。任期・・・令和3年3月末。
 - ・ 第11回 令和2年11月16日・・・最終とりまとめに向けて
 - ・ 第12回 令和3年3月頃・・・最終報告及び今後の会のあり方の提言

佐々木会長 現メンバーでの『過疎地域の活性化を考える会』は、次の会議でひとつの区切りになる。今後の方針についての説明を榊原局長お願いします。

榊原局長 過疎地域の活性化を考える会は、平成29年秋から始まって、皆さんには大変お世話になった。

本会の目的は、みなさんのアイデアを次期過疎計画に反映させることと、地域活性化への取り組みにつなげること。

行政としても皆さんからいただいたアイデアで事業化につながったものもあり、感謝している。

本会は、今年度でいったん区切りにはなるが、今後もこのような会議体は必要だと思っている。

リニューアルして来年度以降の取り組みとして続けていきたいと思っているので、今後の会議の持ち方やメンバーなど次の展開につなげるアイデアを次の会議までに考えてきていただきたいのでよろしくお願いします。

(2) その他・・・お知らせなど

- ・ 飯南友活 BBQ Party 12月6日（日）10:00～14:00 リバーサイド茶倉（別紙チラシをご覧ください）

※今年度より、リバーサイド茶倉への委託事業になりました。

- ・ 2020 高校生地域創造サミット 12月19日(土)～20日(日)・26日(土) (別紙チラシをご覧ください)
- ・ レンタルオフィスの紹介 (移住係 内田係長)

- ・ 次回開催日 令和3年2月末頃から3月ごろ (飯高地域振興局にて)
テーマは、これまでの取り組みの取りまとめと、次年度以降の取り組みについて。

(寺脇副会長あいさつ)

(22:00 終了)